

循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会
(第26期・第3回)
議事要旨

1 日時 2024年8月21日(水) 16:00～18:00

2 方法 オンライン開催 (Zoom)

3 委員会出欠 (敬称略)

出席：土井元章、岸本康夫、三枝信子、城山英明、鈴木朋子、森口祐一、野口和彦
(オブザーバー) 橋本禅、松方正彦

欠席：大塚直、北川尚美、北島薫、辻佳子、橋爪真弘、松八重一代

参考人：山末英嗣 (立命館大学理工学部機械工学科教授)

事務局：新田浩史、齊藤美穂、佐藤有純

4 議題

- 1) 第2回委員会の議事要旨確認
- 2) 参考人からの意見聴取
- 3) 第2回までの意見に基づく論点整理
- 4) 意思の表出に向けたまとめ方のイメージ
- 5) 今後の進め方 (参考人意見聴取、日本学術会議内の連携、行事開催等)

5 配布資料

資料1：第26期循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会
第2回議事要旨

資料2：山末参考人話題提供資料

資料3：第2回委員会までの委員からの意見等に基づく論点整理

資料4：議論の構造について(野口幹事作成)

資料5：委員会の今後の進め方

6 議事内容

1) 議題3、4に関する城山副委員長のコメント確認

森口委員長より、資料3に基づき、第二回委員会までの意見に基づく論点の説明があった。
これに対し、城山副委員長より以下のコメントが述べられた。

- ・全体の方向性に違和感はない
- ・セキュリティ(リスク)の話題にも触れるべきだが、どの程度入れるか
(例：サプライセキュリティ、エネルギーセキュリティなど)
- ・これまでターゲットにしてこなかった社会セクターをどう入れるか
(例：従来の政策手段(診療報酬)だけでは上手く行かない医療や保健などのセクター)

2) 参考人からの意見聴取

参考人として、立命館大学理工学部機械工学科教授の山末英嗣氏をお呼びし、資料2に基づき「カーボンニュートラル社会が誘発する資源問題～資源パラドックス問題～」と題して情報提供を頂いた。続いて、定量化指標としての TME(関与物質総量)と TMR 係数(1 単位の製品やサービスを提供する為に必要な採掘活動量)とリスクとの関係、バイオマス燃料におけるパラドックス問題などに関して質疑が行われた。

3) 第2回委員会の議事要旨確認

森口委員長から、資料1に基づき、第2回委員会の議事要旨の説明がなされた。

4) 第2回までの意見に基づく論点整理

森口委員長から、資料3に基づき、第2回委員会までに出た意見にもとづき、以下に示す論点について説明がなされた。これに対しての委員およびオブザーバーからの意見は無かった。

0. 本課題別委員会および委員会から発出予定の提言の位置付け
1. 本委員会からの意思の表出（カテゴリーとしては「提言」を想定）全般について
2. CN, CE, NP という問題設定自身、3つの問題を同時に取り上げることに関する課題
3. 国際的側面
4. 政府、政策の役割
5. 事例として取り上げる問題（群）の例、事例を取り上げることの意義
6. 政策決定を支える知見の元となる一次情報の不足
7. 委員会の進め方

5) 意思の表出に向けたまとめ方のイメージ

野口幹事から、資料4に基づき、議論の構造に関する説明がなされた。取り纏めの方向性の例として、喫緊の課題である「地球温暖化の抑制・緩和」を柱とし、CN への転換の必要性和緊急性を明示した後、社会やマネジメント主体毎の目標設定、個々の施策の整合性と合理的な投資、CN 以外の施策との整合性を示す、という流れが示された。続いて、各委員より意見が述べられた。

6) 今後の進め方

森口委員長より、資料5に基づき、今後の委員会の進め方について説明がなされた。次回 9/19 は、北川委員、辻委員、松方委員より化学工学分野における取り組みを話題提供して頂く。

以上